

剥ぎ取った壁画の保存管理について

1. 保管場所

(1) 奈良文化財研究所飛鳥資料館

- 状態が安定し、仮処置が終わり、公開した壁画：「白虎」「玄武」「寅」

(2) 高松塚古墳壁画仮設修理施設

①作業室内の棚

- 状態が安定し、仮処置が終わり、公開した壁画：「子」「丑」

※経過観察のため、施設にて保管

- 乾燥が進み、状態が安定している余白漆喰

②作業室内の保冷库（温度18℃に設定、実際の温度は17℃）

- 乾燥が進み、状態が安定している壁画：「青龍」「朱雀」

- 剥ぎ取り直後等のため、状態が不安定な壁画：「午」「戌」「亥」「天文図」

- 剥ぎ取り直後等のため、状態が不安定な余白漆喰

(3) キトラ古墳仮設保護覆屋作業室内の保冷库（温度16℃に設定、実際の温度は15℃）

- 剥ぎ取り直後等のため、状態が不安定な壁画：「天文図」

- 剥ぎ取り直後等のため、状態が不安定な余白漆喰

2. 保管状況の管理

(1) 状態が安定した壁画

博物館環境下（温度20～21℃、湿度55～60%）で保管。

(2) 状態が不安定な壁画

保冷庫内に、脱酸素剤等を入れた密封状態で保管し、週1回以上のペースで状況を確認。状況に変化が生じた場合は、開封し、処置した上で再密封。

3. 保存処置方法

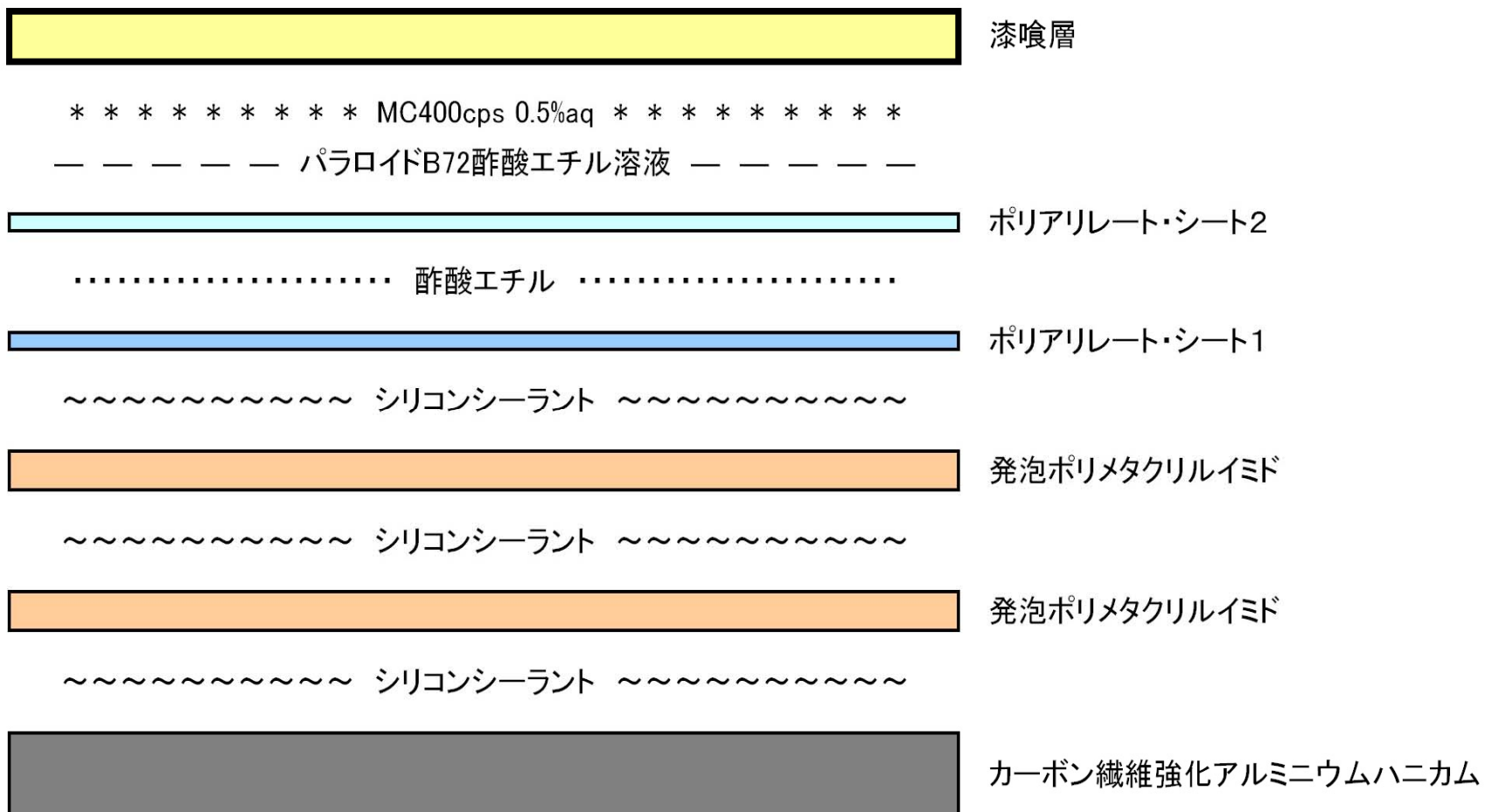
(1) 剥ぎ取り後、裏面にMC（メチルセルロース）を用い、レーヨン紙による何層かの仮裏打ちを行い表面に返した後、表打ちを除去。裏面のまま保管する場合は、MCを塗布。

(2) 脱酸素剤を同封し、場合により窒素を混入した状態で密封した後、保冷庫で保管。

(3) 状態を確認しながら、保管。状態に変化が生じている場合は開封し、脱酸素剤等の入れ替え等を行い、湿度60%程度まで下げ、安定。

(4) 安定した壁画は保冷庫から出し、棚に保管したのち、絵のある部分は仮処置を実施。

4. 仮処置（裏打ち）の構造



壁画の状況（白虎・玄武・寅）



白虎（18年度公開）



寅（20年度公開）



玄武
（19年度公開）

壁画の状況 (青龍)

剥ぎ取り直後(平成16年8月)



平成20年6月現在



壁画の状況（午）

発見直後（平成17年6月）



平成20年6月現在



壁画の状況（朱雀）

剥ぎ取り直後（平成19年2月）



平成20年6月現在



壁画の状況（朱雀）

剥ぎ取り直後（平成19年2月）



平成20年6月現在



今後の朱雀の保存処置方法

1. 短期的処置方法

● 漆喰の強化

- ・ MC（メチルセルローズ）塗布（裏面より）
- ・ パラロイドB72塗布（裏面より）
- ・ ポリアリレートシートで裏打ち

2. 中長期的処置方法

- （1）ゲルの処置
- （2）土の処置
- （3）漆喰の汚れの処置
- （4）「濡れ色」について